

わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
October 2024 vol.459

2024 秋号



特集

青森 人々がつくりあげる
「ねぶた」への思い

達人ノ音ねぶた師

北村 蓮明

ロジステード陸上部選手たちの
ON/OFF

横山 徹





青森観光物産館アスパムと青森湾に浮かぶ青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸



青森市内にある廣田神社の手水舎

Contents

特集

04 青森
人々がつくりあげる
「ねぶた」への思い

SDGsエコレシビ

10 野菜や果物のジャム

達人ノ音

11 ねぶた師
北村 蓮明

ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF

14 横山 徹

18 Topics

19 編集後記

表紙

青森ねぶた祭最終日の花火とアスパム(青森県青森市)

お問い合わせや感想はこちらまで
わだち編集事務局:wadachi@logisteed.com

*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。
*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので
何卒ご了承ください。

ロジスティード広報誌
わだち 2024秋号
2024年10月1日発行

編集発行人 金田 陽子
発行所 ロジスティード株式会社
〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2
Tel.03-6263-2803
印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ



つないでいきたい
日本の祭りに
込められた心

1年をとおして日本では全
国で伝統的な祭りが行われて
います。節分を過ぎると五穀
豊穡の予祝や、子孫繁栄など
を祈る祈年祭、例大祭といっ
た春の祭りが各地で行われま
す。夏は祇園祭やねぶた祭、
秋は時代祭やくんちなど、特
に夏と秋は祭りが各地で盛ん
に行われる季節。

一般的に夏祭りは昔の衛生
環境の問題から、流行り病な
どの疫病退散や、無病息災へ
の願いが多いのに対し、秋祭
りは五穀豊穡や大漁を喜び、
翌年の豊作や豊漁を祈るもの
が多いようです。

各地で行われる祭りはさま
ざま。独特な装束を身にま
とったり、雅楽や舞を奉納す
るなど伝統や文化を感じる芸
能が披露され、脈々と継承さ
れている儀式が執り行われま
す。

また、祭りは、地域のコ
ミュニティーが一丸となつて

準備や催しを行い、結束を強
めるという重要な側面もあり
ます。

ところで、祭りの象徴的な
光景をつくり出すものとして、
神様がお遷りになり、町を巡
行する神輿や山車のほか、祭
りにつきものの提灯やのぼり
などの祭礼品があります。こ
れらは年に一度しか登場しな
いけれど欠かすことのできな
いもの。出番がくるまで大切
に蔵に保管され、その日を迎
えると祭りの場に運ばれる、
その繰り返しを歴史を紡いで
きました。

神様への感謝の気持ち、昔
から変わらない人びとの願
いや祈りの心が祭りに込められ
ています。

こうした祭りを健康で楽し
く迎えられることへの感謝の
気持ちを持って、次の祭りに
参加してみたいかがでしょ
うか。

青森 人々がつくりあげる 「ねぶた」への思い

毎年8月に開催される青森市の青森ねぶた祭
巨大な人形灯籠が載った
大型ねぶたが運行され
100万人以上の人々が集まる
日本を代表する祭りだ
縄文時代から人々の営みが続く青森
祭りを縁の下で支える人たちに
話を聞いてみた



2024年の青森ねぶた祭に出陣した日立連合ねぶた委員会の大型ねぶた。後に相撲の決まり手ともなった「河津掛け」の一場面を表現している。

縄文時代からあった 交易ネットワーク

紀元前1万3000年ごろから1万年以上続いた縄文時代。土器の製作と矢の使用が始まり、人々が共同生活を行うムラも形成された。

青森市で発掘された三内丸山遺跡はそんな縄文時代のムラの一つであり、現在は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界文化遺産にも登録されている。

三内丸山遺跡からは、北海道や長野県産の黒曜石製の石器や新潟県糸魚川産のヒスイ製大珠なども多数出土しており、津軽海峡や日本海を渡り、舟で人やモノが行き来する交易ネットワークがこの時代にあったと見られている。

また、祭りの道具と考えられる土偶やミニチュア土器なども見つかっており、当時の人々も祭礼を行っていたことがうかがえるようだ。

熱気で包まれる 青森ねぶた祭

そんな縄文時代から長い歴史を経て現在に至る青森市では、8月に「青森ねぶた祭」が開催されている。毎年8月2日〜7日までの期間中、市中の大通りを封鎖して設けられた一周約31キロの会場で、

巨大な人形灯籠を載せた大型ねぶたが20台以上運行される。

その大きさは幅9メートル、奥行き7メートル、二輪のタイヤが付いた台車を含めた高さは5メートル。人形灯籠の中にはLED電球の照明が入られており、人形の造形を内側から明るく照らす。運行には笛や太鼓、手振り鉦を鳴らす囃子方「ラッセラー」、ラッセラーの掛け声とともに跳ねるように踊る「跳人（ハネト）」や白塗りの顔にハロウインのように仮装した「化人（バケト）」も一緒に歩いていく。

沿道は見物客たちであふれ、ねぶたに対する盛大な掛け声とともに会場は熱気で包まれる。今年の期間中は約100万人の人出があったといい、日本を代表する祭りの一つだ。

もともと、この青森ねぶた祭の起源に定説はなく、七夕祭りの灯籠流しと、農繁期前の夏に農作業の敵となる睡魔（厄災）を追い払う「眠り流し」の風習が習合してできあがったという説が一般的だ。史料上の記述として最初に登場するのは江戸後期、1842年の「柿崎日記」だ。また、ねぶた祭は社寺の祭礼や神事ではなく、町内会など民間の力で続いてきたことも特徴といえる。

**リオのカーニバルにも
匹敵する祭り**

「個人的には青森ねぶた祭はブラジルのリオのカーニバルにも匹敵する祭りだと思います。これからは海外にもこの魅力をもっと発信して、いずれ、リオか、青森か、と言われるような祭りになっていきたいです」

そう語るのは、1965年から毎年、青森ねぶた祭に大型ねぶたを出陣させている日立連合ねぶた委員会の川内 英明会長だ。

「私は仙台市の出身で、青森には8年前に会社（株日立製作所）の異動で赴任し、ねぶた祭にも関わるようになりました。青森の地元の方にとって、ねぶたは生活の一部になっていきます。ねぶた祭があつて初めて『夏がきた』と感じられるようです。コロナ禍で祭りが中止になった時は『夏がこなかった』とも話されていました」と、ねぶた祭と地域との関わりを話す。

そして、その魅力の根幹について「参加型で、みんなで作くりあげるお祭りだということです。ねぶたと一緒に踊るハネトも、決められた衣装（正装）を着てルールを守れば、観光客の方でもハネトになることができます。ねぶた運行も曳き手や囃子方のほか、安全

な運行のための運行係がいたり、大勢の人が関わって成り立つお祭りなんです」と語ってくれた。

また、日立連合では環境に配慮し、ねぶた内部のLED照明の電源を、2022年から太陽光発電で充電したバッテリーに変更した。従来のディーゼル発電機からの変更で、この脱炭素ねぶたは、青森ねぶた祭史上で初の試みだった。

日本の伝統的な祭りを広めるために、海外のグループ会社の外国籍社員の家族をねぶた祭に招き、実際の体験で感じた魅力を社内SNSで発信してもらおう取り組みを行っていることも教えてくれた。

**ねぶた制作を支える
縁の下の力持ち**

人々を魅了する大型ねぶたは、ねぶた師が制作する。国内外の神



株日立製作所 東北支社 青森支店の支店長で、日立連合ねぶた委員会 会長を務める川内 英明さん。8年前に青森支店に赴任するまで青森ねぶた祭に参加したことはなかったが、すぐにその非日常感に魅了されたという。

**レーザーの掛け声で
生まれる興奮の渦**



左上/日立連合ねぶた委員会の役員として提灯を持ち、先頭を歩くロジステッド東日本(株) 青森係長の山口 佳佑さん。右上・左中/青森ねぶた祭で運行される大型ねぶたと、熱気あふれるハネトの様子。左/ロジステッド東日本(株) 青森係は従業員全員で大型ねぶた制作時の台上げや本番での運行やハネトなど、さまざまな役割で参加している。

参考資料:「三内丸山遺跡ガイドブック」(三内丸山遺跡センター刊)・「山・鈴・屋上の祭り研究事典」(監修:植木 行宣 思文閣出版刊)「ねぶた祭—ねぶたバカたちの祭典」(著:河合清子 角川書店刊)



大型ねぶたの運行は人力。力のある地元の高校生らが集められ、曳き手を務める場合が多いそうだ。扇子持(せんすもち)の合図でねぶたを躍動的に動かしていく。

あるので、下手をすると中央部分でバキッと折れる可能性もあるのです」と青森係長の山口佳佑さんは話す。

この作業ができるのは、青森係の主な業務が工場などの機械設備品の輸送、据え付けまで行う機工事業で、精密機械などの移動や設置などのスペシャリストだからだ。

「ただ、今年(2024年)の台上げは70人ほどに人数を増やしました。今回の日立連合ねぶた委員会のねぶたの題材は北村蓮明先生作の『河津掛け』で、相撲を取る二人がメインの人形灯籠となりました。先生はあえて難しい表現を選んでいる場面を表現しています。そうなるら全体でバランスを取ることが難しくなり、中の角材が増え、全体の重量も重くなるため、通常よりも20人増やしたのです」と山口さんは舞台裏を教えてくださいました。

作業ではねぶたの木製の台座の下に足場用の鉄の単管パイプを通し、そのパイプを持ち上げて台車の上におろした後、パイプを抜くことで、無事に台上げを終えられたという。

**来年へのスタートとなる
ねぶたの解体**

青森ねぶた祭は期間中に大型ね

**ロジステッド東日本株式会社 東日本地区本部 東北営業部 東北輸送・機工営業所 青森係
半導体製造・食品製造ラインなどさまざまな機械を搬入・設置**

ロジステッド東日本(株)の東北輸送・機工営業所 青森係は、青森市間屋町に整備されている卸商業団地の一角にあり、機械設備の搬入や据え付け作業などを行う機工事業、そして倉庫保管を主な業務としている。

青森係長の山口 佳佑さんは「半導体を製造する工場への機械搬入と据え付け、食品工場の製造ラインの機械設置など、お客様と



倉庫では、日立連合ねぶた委員会の大型ねぶたの台車や太鼓、部材関係を保管している。

そのご要望内容は多岐にわたります。それぞれにオーダーメイドで対応しています」と話す。青森ねぶた祭には、日立連合ねぶた委員会の一員として参加。大型ねぶたの台車や八連太鼓、LED電球などの部材を倉庫で保管することも業務の一つだ。さらにねぶた祭の期間中は従業員総出で運行の統制など、安全な進行を支える裏方、そしてハネトとして祭りを盛り上げている。

「大型ねぶたの制作時、完成した人形灯籠を約2メートルの高さの台車に上げる『台上げ』も我々に託された重要な業務です。日頃の機工作業で培ったノウハウを活かし、重量のある人形灯籠を委員会メンバーの手作業で台車に持ち上げます」と山口さん。さらに「ロジステッド関係者のみなさんと、ねぶたに『ハネト』として参加されたい方はご連絡ください

い。一緒に跳ねられるようお手伝いします!』と呼びかけている。



青森係の社屋の前に立つ従業員のみなさん。休憩時には互いの趣味の話や仕事先で見つけたおいしい店の話などで盛り上がるという。

DATA	
住所	青森県青森市間屋町2-12-30
電話	017-763-0108
従業員数	11名

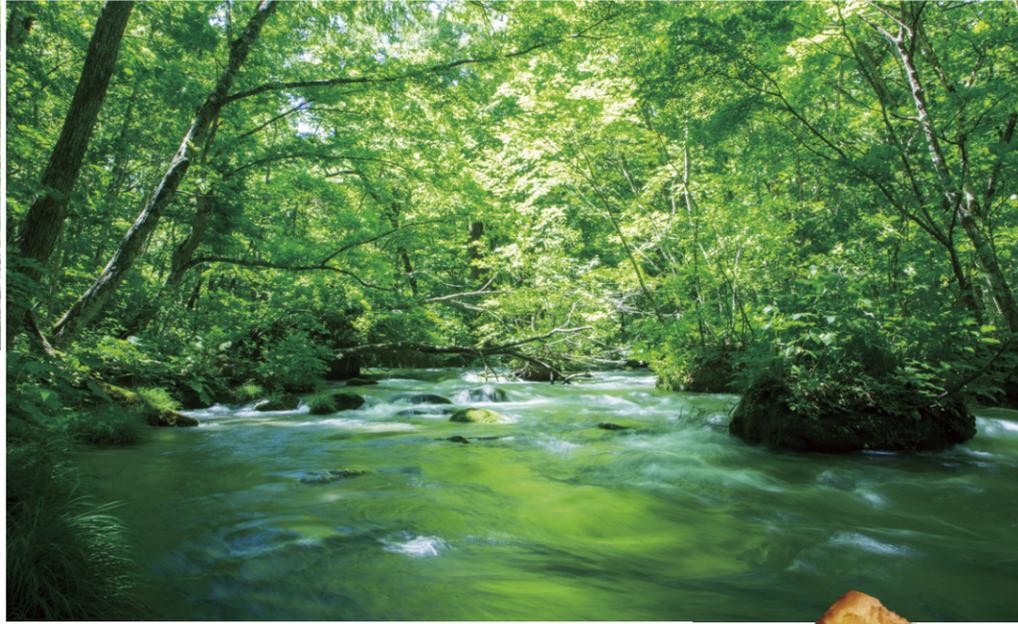
話や故事、古典から題材をとり、下絵を描き、その下絵をもとに立像をつくり上げていく。人形灯籠作りだけで半年ほどかかる作業だ。その制作を支える縁の下の力持ちのような協力者も大勢いる。日立連合ねぶた委員会のメンバーであるロジステッド東日本(株)の東北営業部東北輸送・機工営業所 青森係は、大型ねぶた用の台車や部材などの倉庫保管と必要に応じ

た輸送を担う。さらに大きな役目は人形灯籠完成後の「台上げ」だ。台上げとは、重さ約800キロの人形灯籠を高さ2メートルほどの台車の上にあげる作業のことだ。「和紙と針金、角材で作られた繊細な造形物なのでクレーンで吊り上げることはできません。通常は50人ほどの手で、全体のバランスを見ながら慎重に持ち上げます。幅9メートル、奥行き7メートル



奥入瀬溪流

火山の噴火活動でできた十和田湖（青森県十和田市）から流れ出る清流でできたのが奥入瀬溪流だ。湖からの唯一の水の出口である子ノ口（ねのくち）から約14キロ、高低差約200メートルの溪流が続く。銚子大滝（上）、三乱の流れ（右）などさまざまな景勝地が点在している。
 ◎青森県十和田市奥瀬新久保183（奥入瀬溪流館）



八甲田山

八甲田山は十和田八幡平国立公園の北部に横たわる連峰の総称で、主峰の大岳（1584.5m）を中心に18の峰々で構成されている。多数の湿地があり、高山植物の宝庫にもなっている。冬～春には樹氷やスキーも楽しめる。田茂苑岳（たもやちだけ）（1324m）の山頂近くまでは八甲田ロープウェイのゴンドラで行くことができる。
 ◎青森市荒川字寒水沢1-12（八甲田ロープウェイ乗り場）



アップルパイ、味噌カレー牛乳ラーメンほたてなどの海鮮…青森はおいしいものいっぱい



青森県観光物産館 アスパム

左側の三角形の建物がアスパム。「AOMORI」のAを象った建物で、1階ではアップルパイなどのスイーツや地酒、工芸品など、青森の名産品や特産品を購入できる。2階には360度パノラマの3Dデジタル映像で青森の夏祭りなどを観られるシアターがあり、13階は青森市街や八甲田の山々を眺望できる展望フロアになっている。また、このすぐ近隣の赤い建物は「青森市文化観光交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ」で青森ねぶた祭で大賞を受賞した大型ねぶたなどが展示されている。写真右側に見える黄色い船は「青函連絡船メモリアルシップ 八甲田丸」。1988年に廃止された青函連絡船の1隻が保留・保存され、見学できるようにしている。
 ◎青森市安方1-1-40



三内丸山遺跡

2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を代表する、日本最大級の縄文遺跡である三内丸山遺跡。約5900年～4200年前の集落跡と見られ、竪穴建物跡や掘立柱建物跡、大人や子供の墓などが出土している。復元された建物もあり、時間を掛けて見て回りたい場所だ。出土品や体験を通じ縄文の暮らしを学べる「縄文時遊館」も併設されている。
 ◎青森市大字三内丸山305



8月7日夜、「青森県観光物産館 アスパム」などがある青い海公園に面した青森港では青森ねぶた祭で入賞した大型ねぶたの海上運行と花火大会が開催される。

運行の場にきて、ねぶたが持つ本物の迫力を感じてほしい



ねぶた祭の終了後、大型ねぶたは取り壊され、廃棄される。日立連合ねぶた委員会のねぶたの解体から廃棄場所までの移動はロジスティード東日本（株）青森係が主導する。

ぶた運行があり、審査員による優秀団体の表彰制度がある。上位入賞の4台のねぶたは8月7日夜、青森港で海上運行され、祭りのフィナーレを飾る。その際には約1万発の花火が上がる花火大会も同時に行われる。
 その祭りの後、入賞した一部のねぶたを除き、出番を終えたねぶたは翌8日の早朝から解体される。日立連合ねぶた委員会のねぶたを制作したねぶた師北村蓮明さんはその様子を見ながら「やっぱり、半年間、丹精込めて作り上げたものを壊すことはさみしい、



もったいないなと思うよ。でも壊さないと、次が始まらない。これで気持ちを切り替えて、また来年に向けて誰もが見たことがないねぶたを作っていくよ」と話してくれた。
 また「ねぶたは本物を見ないと、絶対にその迫力が伝わらない。ぜひ、大勢の人に本物を青森まで見に来てもらい、驚いてもらいたい」とも語っていた。
**県内の各所で巨大灯笼を
楽しめる祭りがある**
 青森県内では8月、青森ねぶた祭のほかにも各所で特色のある祭

りが開催され、巨大な灯笼や山車の運行を楽しめる。五所川原市の「五所川原立佞武多」は、ねぶたの高さが特徴で一番大きいものは高さ約23メートル、重さ約19トンにもなる。弘前市の「弘前ねぶたまつり」では、ねぶたの絵が描かれた扇形の「扇ねぶた」を中心に運行される。
 祭りの他にも、奥入瀬溪流や八甲田山などの雄大な自然の景観や温泉、おいしいものもたくさんあり、ゆっくり滞在して楽しみたい場所だ。来年の8月には「本物」の迫力と熱気を現地堪能してみたいかがたろう。



上／青森ねぶた祭では日立連合ねぶた委員会専属の囃子方として参加している「青森ねぶた凱立会（がいりゅうかい）」のみなさん。2024年の青森ねぶた祭での受賞も含め囃子賞を8年連続、計15回受賞している青森を代表する囃子方だ。
 左／青森ねぶた祭の運行ルート近くの廣田神社（青森市）に献灯された七夕金魚ねぶた。7月後半になると、子どもたちが手作りしたり、駅や街中の商店の軒先など至る所に飾られたり、ねぶた祭に欠かせない金魚ねぶた。金魚はその名のとおり、金を運ぶ魚。つまり幸せを運ぶ縁起物として親しまれている。

第6回

「わだち」は漢字で書くと「和達」とあてています
この「達」にちなんで各分野の達人を紹介していきます



伝統の青森ねぶた祭 その花形、巨大人形 灯籠に込めた思い

ねぶた師

北村 蓮明さん

国指定重要無形民俗文化財であり、国内外から100万人を超える観客を集める「青森ねぶた祭」。その花形が巨大な人形灯籠の山車である大型ねぶただ。中には照明装置が仕込まれ、夜は鮮やかな色で輝く。この大型ねぶたを制作しているのがねぶた師である。1台の制作期間は約9カ月。下絵描きから始まり、骨組みができ、色が付けられて完成するまでの工程とその魅力について、この道66年のねぶた師、北村蓮明さんに聞いてみた。

ロジスティードグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

SDGs エコレシピ

vol. 6

今回の余りもの食材は…

みかん・キウイ・レモン・
かぼちゃ・人参・トマト

野菜や果物の ジャム

かご盛りや箱でまとめ買いすることの多い果物。フレッシュなうちにジャムにしておくことで、新鮮な風味を長く楽しむことができます。また、トマトやかぼちゃ、人参などの野菜をジャムにするのもおすすめです。傷む前にこまめにジャムに仕立てて無駄をなくしましょう。

作り方

【みかんジャム】

①果肉のみを取り出す。②砂糖をまぶして30分～1時間おいてから弱火で煮詰める。

【キウイジャム】

①皮を剥いて縦4分割、横4分割のサイコロ状に切る。②砂糖をまぶして30分から1時間おいてから弱火で煮詰めるが、ゴロゴロ感が残るよう多少水分が残っているくらいでレモン汁を入れて火を止める。

【レモンジャム】

①皮を剥いて千切りにし、2分茹でてから果肉を加えて砂糖をまぶす。②30分～1時間おいてから弱火で煮詰める。

【かぼちゃジャム】

①3分の1程度に切ったかぼちゃを皮付きのままレンジで加熱、あるいは下茹でてやわらかくしてから砂糖と合わせて弱火で煮詰める。②仕上げにレモン汁を加えて火を止め、お好みでシナモンを加えるのもおすすめ。

【人参ジャム】

①皮を剥いてレンジで加熱、あるいは下茹でてやわらかくしてから砂糖、白ワインを合わせて弱火で煮詰める。②仕上げにレモン汁を加えて火を止める。

【トマトジャム】

①皮を湯剥きし、細かく切る。②種が気になる場合は、ざるなどで濾して取り除き、砂糖と合わせて弱火で煮詰める。③仕上げにレモン汁を加えて火を止める。

※トマトは水分が多いので煮詰まるまで時間がかかる。

材料

【みかんジャム】 ●みかん150g(小2~3個) ●グラニュー糖45g

【キウイジャム】 ●キウイ300g(3~4個) ●グラニュー糖200g

●レモン汁大さじ2

【レモンジャム】 ●レモンの皮2個分 ●果肉

●グラニュー糖(レモンの重量の約50パーセント)

【かぼちゃジャム】 ●かぼちゃ600g ●グラニュー糖70g

●レモン汁大さじ1 ●シナモン適宜

【人参ジャム】 ●人参150g ●グラニュー糖30g

●レモン汁大さじ1 ●白ワイン大さじ2

【トマトジャム】 ●トマト350g(中2~3個) ●グラニュー糖70g

●レモン汁小さじ1

旬 果物や野菜は価格が下がるのでまとめ買いすると経済的ですが、賞味期間内に食べ切るのが難しいこともありますよね。使い切れないかも…と思ったら早めに砂糖と一緒に煮てジャムにしておくことで無駄がなくなります。ジャムは保存食ですが、1週間程度で食べ切らないうちの少量なら短時間で作れますし、砂糖の量を減らすこともでき、ヘルシーです。作り方は基本的には煮詰めるだけといったって簡単。果物は砂糖をまぶしてしばらく置いて水分を出しておくことがポイント。出かける前にこの下準備をしておく、帰宅してすぐに煮詰める工程に入



これから旬を迎える柑橘類やりんご、柿はもちろん、小松菜、白菜、大根などの冬野菜でもおいしいジャムが作れます。砂糖の量は好みで食材の重量の30%から同量で調整を



れるのでより手軽感が増します。保存容器に水分が残っているとカビなどの原因になるので煮沸消毒をして乾かしてから、ジャムを入れて冷蔵庫で保存してください。パンやホットケーキなどに塗る、ヨーグルトやアイスクリームのトッピングに、紅茶に溶かすなどそのままでもおいしく食べられます。肉の煮込み料理に使うとまろやかなコクが加わるなど多岐にわたって利用できます。

中学2年で弟子入り、その時学んだのは「自分で考えること」

青森県青森市で毎年8月に開催される「青森ねぶた祭」。日本有数の祭りであるこの青森ねぶた祭の主役は、「大型ねぶた」と呼ばれる巨大な人形灯籠の山車だ。規定の最大サイズは幅9メートル、奥行き7メートル、台車を含めた高さが5メートルにもなり、総重量は約4トン。人々の興奮とともに1周約31キロの運行コースを曳いて行く。

この大型ねぶたを制作しているのがねぶた師だ。北村蓮明さんもその一人。青森ねぶた祭で審査される大型ねぶたの総合1位「ねぶた大賞」を3回受賞している。北村さんが初めてねぶたを作ったのは小学4年生の時。双子の兄



ねぶた小屋でのねぶた制作光景。ねぶた内部にはLED照明が使われている。針金での骨組み制作は4~5人のスタッフとともに行い、紙貼り作業では15~20人ほどのスタッフが手伝いに入る。バランスを見て、何度も調整が入る。色付けも複数回に分けて行う。

である隆さん、さらにその上の兄と兄弟3人で子どもねぶたを制作した。ねぶた祭では町内会でも、ねぶたもたくさん作られていた。ねぶたもたくさん作られていた。「まあ、言ってしまうえば小遣い稼いだな」と北村さんは笑いながらその当時のことを話す。「そのころは子どもがねぶたを作れば寄付が集まるんだ。それが小遣いになつてうれしかったんだが、だんだんねぶたの制作そのものがおもしろくなっていったんだ」そして、その技量が認められ、周囲からの勧めでねぶた師の故北川啓三さん(後の第2代ねぶた名人)のもとに隆さんとともに弟子入りすることになった。中学2年生のときのことだ。「師匠はほめてくれる人だった。その頃の骨組みは竹と針金が半々だったんだが、手とか刀のパーツを作るのに図面はないんだ。師匠が作るのを見て自由に作るんだが、「たいしたもんだ」といつもほめてくれた」と北村さんは振り返る。「その時に学んだのは『自分で考える』ってことだ。どうやったらイメージしているものができるか、自分で工夫しながら作った。その体験が自分の基礎になったんだ」

その後、北村さんは17歳の時、3兄弟で大型ねぶたを初制作。以後は小型ねぶたの制作を続け、1978年に再び隆さんと兄弟合作で大型ねぶたを作り、1984年からはそれぞれが独立してねぶた師として活躍している。

平面から立体へいろいろな角度から見してほしい
大型ねぶたの制作はまず日本の民俗神話や故事、海外の古典などから題材をとり、下絵を描くことから始まる。北村さんは毎年11月頃から取り掛かるという。鉛筆での下描きに始まり、最終的に色を付ける。それがねぶたの設計図となる。「題材については何にするか、いつも考えている感じだ。何枚も描いて、最終的には正月までに2点ほどを完成させて、(依頼主の)出展団体に」どちらにするか決めてもらうんだ」と北村さん。下絵が決まれば、2月下旬頃か

ら顔や手、刀、槍など細部のパーツ作りに取り掛かる。5月には青森港に隣接した「青い海公園」に大型ねぶたを制作するための専用のねぶた小屋が並ぶ「ラッセラン」が設置されるが、それまでは自宅での作業となる。5月からのねぶた小屋での作業はまず角材で支柱を建て、それを支えにしながら針金で形を作って

いく。それが「骨組み」となり、次の中から光らせる照明用のLED電球を取り付け、電気の配線を行う。次に奉書紙を使った「紙貼り」が行われ、真っ白な人形灯籠の原型が立ち上がる。そこに墨で顔や着物などを描く「書割り」を行い、パラフィン(石蠟)を溶かしたもので着物の模様などを描く「ろう書き」へと続く。

最後の工程は「色付け」で、筆やエアブラシを使い、染料や水性顔料で色を付けていく。色付けは何回もやるよ。とくに面(顔)の部分はエアブラシを使って4回くらいに分けて行うかな。薄い色か



2024年の青森ねぶた祭で「日立連合ねぶた委員会」から依頼され、北村さんが制作した大型ねぶたの題材は「河津三郎祐泰「河津掛け」」。平安時代末期、源頼朝の前で取られた相撲の一場面を表現したものだ。この下絵を描くことからねぶた制作は始まる。



上/完成し、青森ねぶた祭で運行された「河津掛け」の大型ねぶた。どの角度から見ても一瞬で勝負が決まる相撲の緊迫感と迫力が伝わってくる人形灯籠となった。左/祭の期間中、大型ねぶたはねぶた小屋に格納され、ここから会場へ曳いて行く。

ら濃い色へ重ねていくんだ」と北村さんは色付けのこだわりを教えてくださいました。実際に色付けされた顔を見ると、やさしい玉のような肌の質感となっている。全体の色付けが終わった後、高さ2メートルの台車にねぶたを上げる「台上げ」が行われる。50人ほどの人力で行う作業となる。「この台上げの瞬間が一番うれしい。それまで作ってきたねぶたが下から見上げるとどんなふうに見えるか、この時まで分からないから、緊張もする」と北村さん。台上げの後も全体のバランスを見て、何度も手直しを行っていく。「ねぶたは平面の下絵から始まる

ものだが、出来上がりは立体になる。いろいろな角度から見てもいいんだ。だから細部まで作り込まなくちゃいけない」ねぶたを作り続けて66年。これまでに制作したねぶたは「数えたことはないが、100台以上」と言う北村さん。やっぱり人を感動させるものを作るっていうのが、この仕事の魅力だな。今でも飽きないし、1年365日、ねぶたのことが頭から離れない。まだまだ作り続けるよ。若いねぶた師もどんどん生まれてきているから、新しいものを作っていくって面白いね」と、ねぶたの魅力と未来への思いを語ってくれた。

きたむら れんめい ●1948年、青森県青森市生まれ。青森ねぶたを制作するねぶた師。同じく、ねぶた師として活躍する北村 隆さんは一卵性双生児の兄。小学4年の時から町内ねぶたを作り始め、中学2年で隆さんとともに故北川 啓三さん(後の第2代ねぶた名人)に弟子入り。その後、兄弟でのねぶた制作を経て、1984年に独立。青森ねぶたでねぶた大賞を3回受賞。現在は青森ねぶたで「日立連合ねぶた委員会」と「パナソニックねぶた会」の大型ねぶた制作を請け負っている。また、長男の春一さんは蓮明さんのもとでねぶた制作を学び、2011年にねぶた師としてデビュー。蓮明さんと同様、青森ねぶたで大型ねぶたを制作している。



「新潟県の出身で、 中学生の時は スキー部でも 鍛えていました」

ロジスティード陸上部に入部して4年目となり、中堅の選手となってきた横山徹さん。新潟県十日町市の出身で、中学生の時から陸上を始め、すぐに頭角を現した選手だ。今年は何意とする5000メートルで自己記録の更新を続けている。横山さんにこれからの目標などを聞いてみた。

陸上を始めたきっかけは？

地元新潟県十日町市の中学に進学して部活を決める時、昔から知っていた先輩が陸上部で全国大会に出場して活躍していたんです。その先輩に憧れて陸上部に入ったのがきっかけです。中2の時は駅伝で全国大会に出場し、2区を走りました。中3の時には陸上のジュニアオリンピック大会に出場し、3000メートルで8位入賞となりました。小学生の時には野球をしていたのですが、陸上はタイムという数字で自分がどれだけ強くなったか、数値化されて明確に分かるのが自分の性に合っていました。

中学・高校時代は雪上で

雪が多い地域で、中学の時にはスキー部にも所属していました。11月まで陸上をやって、その後は3月までスキー部です。野山や丘を越えていくクロスカントリースキーは、細めのスキー板を履いて上りもあるハードなスキーで、とても鍛えていました。高校の時は陸上一本に絞りましたが、冬期は雪の上を走っていました。

大学時代の生活は？

日本大学に入学して陸上競技部に所属しました。グラウンドのすぐ隣にある寮に入ったのですが、朝の練習は4時55分集合でした。冬はまだ真つ暗な時間帯です。6時30分頃に練習が終わり、シャワー

を浴びて、朝食を食べて、大学へ向かうという生活でした。寮は東京の郊外にあり、大学の学舎は都心にあったので、1時間ほどラッシュの満員電車に乗って通学していました。

箱根駅伝出場

箱根駅伝は大学の2年生と3年生の時に、どちらも1区で出場しました。スタートの時は高揚感もあってそれなりに楽しかったのですが、どちらも区間順位的には振るわず、僕の中では少し苦い思い出になっています。

横山 徹

ロジスティード陸上部
選手たちの
ONとOFF
vol. 6
Tetsu Yokoyama



ロジスティード陸上部に 入部した経緯は？

大学3年になって就職活動を始めました。陸上と関係のない企業への就職も考えて、面接に行ったりもしました。ただ、その活動の中で自己分析をしてみて、中学、高校、大学と10年間やってきた陸上を終わらせてしまっているのかわかるようになりました。それで大学の監督に相談したところ、こちら（現在のロジスティード、当時は日立物流）の陸上部に行ってみないかと言ってくれて、それが入部のきっかけです。

アスリートとしての食生活は？

平日の朝と夜は、クラブハウスで出していたら栄養バランスのとれた食事を食べています。週末は自分で作るのですが、料理をするタイプではありません。ただ、コンビニで買う丼ものや麺類の食事だけになると炭水化物に偏るため、栄養士さんの指導もあってタンパク質を摂るように心がけて自分で作るようにしています。最近はやラダチキンメーカーという調理器

今年6月には自己新記録も これからの目標は？

6月2日にあった「日本体育大学長距離競技会」の5000メートルで自己新記録の13分39秒67で走れました。その前の4月の競技会でも自己新記録として13分48秒69を出していたのですが、それを更新できました。ただ、自分としては満足いく結果ではなく、まだまだ上をめざし、日本陸上競技選手権大会への出場を目標にしています。また、今年1月のニューイヤードでは7区を走ったのですが、強い向かい風に苦しんだという反省があり、体幹を鍛えるために今年は筋トレに力を入れていきます。チームの目標としてはニューイヤードでの8位以内入賞です。

オフィスワークは どんな仕事？

千葉県柏市にあるロジスティード東日本柏営業部柏PFC営業所で週に2日、倉庫からの配車手配の事務作業を担当しています。お客様の主力商品がシューズなので、今日は何足で何ケースになるので、4トン車何台を手配しよう、というような感じです。決算期やGW前などには出荷数が増えたりして、この作業をとおして物流業界のことや、世の中の経済の動きが見えてきたりしておもしろいです。

オフの日は どう過ごしていますか？

陸上部の練習が月曜から土曜まであり、日曜日がオフになります。趣味はゲームなので、千葉県松戸市にある）クラブハウスの寮の自室でアクションゲームをしたりしています。あとは動画配信サービスで好きな映画を観て、気分転換していますね。

「てっつー」と呼んで ぜひ応援してください

試合前の ゲン担ぎや ルーティンは？

ゲン担ぎは？と聞かれれば「映画を1本観ること」と答えています。試合前になるとやはり寝付きが悪くなったり、神経質になります。そんな時、誰かが作った物語を観て現実逃避をする感じです。自分ではない誰かの物語を見終わって我に返った時、自分の不安はたいしたことないのかも、落ち着くのです。観る映画のジャンルはバラバラです。

応援は力になる？

応援していただいたり、試合のことを聞いていただいたりすると本当にうれしいです。今年のニューイヤードでは僕はアンカーだったので、ゴール間際で会社のみなさんの声援が聞こえてきた時は元気が出ました。僕の名前は「てっつー」で、2文字なので呼びやすいかもかもしれません。ぜひ「てっつー」と呼んで応援してください！



よこやま かつ●1998年生まれ、新潟県十日町市出身。中越高校、日本大学卒業。2021年4月、(株)日立物流(現・ロジスティード(株))に入社し、陸上部に所属する。大学時代に2回、箱根駅伝に出場。自身の強みは「体が頑丈なこと」。トラック競技の5000メートルや1万メートルを得意としている。

「熱田物流センター」開設

ロジスティード中部(株)が愛知県名古屋にて建て替え工事を進めていた「熱田物流センター」が完成し、7月12日より稼働を開始しました。

このセンターは主要道路へのアクセスが容易で名古屋中心部まで約5km、名古屋港まで約18kmの好立地に位置し、荷主企業の多様な物流ニーズに対応できる多目的汎用物流センターです。太陽光発電・LED照明・EV充電設備などを導入し、環境負荷の小さい物流サービス提供に向け、温室効果ガス(CO₂)の削減とエネルギー利用の効率化に取り組みます。また、センター内の一部エリアでは今後、警備ロボットや顔認証による監視カメラなどを導入し、堅固なセキュリティ体制下でパソコンや情報通信機器のキittingを行う付加価値サービスを提供します。



「小郡物流センター」開設

ロジスティード九州(株)は福岡県小郡市にて「小郡物流センター」を開設し、8月1日より稼働開始しました。ロジスティードコラボネクスト(株)と高効率な運営をめざすため自動化設備を積極的に導入し、独自開発した統合制御システムRCS(リソースコントロールシステム)による制御と、作業効率の高い設備の組み合わせで、省人化効果を実現します。また、太陽光パネルによる再生エネルギーの調達で一部の電力を賄うなど、環境にやさしい運営に取り組みます。



「QRコード」を読み取ると、ロジスティードのWebサイトから詳細がご覧いただけます。「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

編集後記

日本各地でさまざまな「祭り」が催されており、私が住む地域でも6月には立派なお神輿3基が町内を練り歩きました。今年は5年に一度の本祭と言われる年で盛大な賑わいとなったのですが、お神輿を担ぐ威勢の良い掛け声やお囃子が聞こえてくると、なぜかワクワクするのは日本人だからでしょうか。出店が立ち並ぶ祭りの雰囲気も楽しく、非日常を味わえる行事として特別感もあります。来年の祭りの時期が来ることを今から楽しみです。(金田)

第25回 物流環境大賞「特別賞」を受賞

一般社団法人日本物流団体連合会主催の第25回物流環境大賞において、ロジスティード(株)は(株)クラベ、ユニ・チャームプロダクツ(株)、鴻池運輸(株)、ロジスティードエクスプレス(株)と共同で実施した「二社間ラウンドユースによるCO₂排出量削減への取り組み」において「特別賞」を受賞しました。



AIドラレコ動画解析による安全運転教育コンテンツ配信サービスの提供開始

9月よりロジスティード(株)と損害保険ジャパン(株)およびSOMPオリスクマネジメント(株)は、ロジスティードグループが展開する安全運行管理ソリューション「SSCV®-Safety」のAIドライブレコーダーで検知したヒヤリハット(危険事象)を解析し、最適な安全運転教育コンテンツをピンポイント配信するサービスの提供を開始しました。



タイヤのトラブル予知によるトラック稼働率向上の実証実験開始

ロジスティード(株)は、ロジスティードグループが保有する車両へ、住友ゴム工業(株)のタイヤ空気圧や温度をモニタリングして異常を知らせる「タイヤ空気圧・温度管理サービス」を導入し、トラックの稼働率向上に向けた実証実験を7月より開始しました。

●「タイヤ空気圧・温度管理サービス」概略図



サプライチェーンの効率化・省エネ化に向けた共同実証完了

ロジスティード(株)は、大和ハウス工業(株)とイオングローバルSCM(株)、花王(株)、(株)豊田自動織機とともに、経済産業省資源エネルギー庁公募事業である「AI・IoT等を活用した更なる輸送効率化推進事業」において、荷役効率化・物流効率化・省エネ化に取り組む共同実証事業の実施期間が終了しました。



「日立っっこいい・青森の宝」と推し活のようにパネルを掲げる観客、途中からどんどん列に加わる跳人や跳人の配る鈴を欲しがると子どもたち、いかに青森の方々かねぶたを愛し非日常を楽しんでいるのかを実感しました。昔はねぶた内部の明かりはろうそくだったのが、白熱電球に代わり今ではLED電球に。時代にあった良いものを積極的に取り入れ、変化を受け入れながら未来へつなげていく。何事にも共通する進化の本質を見た気がします。(谷野)

2024日本パッケージングコンテストでトリプル受賞 ロジスティクス賞1件 輸送包装部門賞2件

ロジスティード(株)は公益社団法人 日本包装技術協会主催「2024日本パッケージングコンテスト」において「1t積載できて、リサイクルしやすい、ハイブリッドパレット!」がロジスティクス賞を、「支柱脱着式段積み輸送用デッキ」および「小型電子顕微鏡のスロープ付き梱包箱」が輸送包装部門賞を受賞しました。



「東北・みやぎ復興マラソン2024」協賛のお知らせ

ロジスティード(株)は、11月3日に開催される「東北・みやぎ復興マラソン2024」に協賛しています。この大会は、東日本大震災の被災地復興に寄与することを目的に2017年から開催され、今大会は、前回に続き「杜の都」仙台市をスタートし、岩沼市・名取市を走るフルマラソンコースです。ロジスティードグループは開催初年度から支援を続け、大会運営や被災地復興への想いを持ったランナーのみなさんをサポートしてきました。“走ることが、誰かのためになる”そんな大会を、地域のみなさんと参加するランナーのみなさんと一緒に創り上げていきます。



「ソープボックスダービー®」日本代表選手の 世界選手権出場支援

ロジスティード(株)は、Gravity Car Race/重力カーレースの普及促進をめざすNPO法人日本ソープボックスダービー協会(以下、NPO_NSBSD)の活動を応援しています。アメリカで開催された「第86回 AASBD(オールアメリカンソープボックスダービー)世界選手権」への日本代表選手の出場に協賛し、社名を冠した「LOGISTEED VANTEC ニッポン号」で出走しました。



「脱炭素エキデン365」参画

ロジスティード(株)は大阪府と(株)スタジオポピーによる脱炭素社会の実現に向けた意識改革と行動変容を促進する「脱炭素エキデン365」プロジェクトに参画しました。このプロジェクトは、参加する企業数百社・総勢10万人強の従業員と府民が、2025年に開催される大阪・関西万博開幕を契機に、さまざまな環境アクションを実践してCO₂排出抑制に取り組み、その脱炭素活動のスコアを見える化することでEXPOグリーンチャレンジへの貢献をめざすプロジェクトです。プロジェクトのテーマソング「Thank you for every breath」を歌っている、歌手の倉木 麻衣さんからのコメントを紹介します。



倉木さんのコメント

生まれた時から私たちは“息を吸って吐いていく”ということを、当たり前のこととしてやっているけれど、実はこれが当たり前ではなくて、無条件の愛で母なる地球が支えてくれているんだ、と思いながら。子どもたちの未来にそういう思いをつないでいってくれたらな、と思ってこの曲を作りました。

「Apex Legends Global Series Year 4 Split 2」eスポーツ大会協賛

ロジスティード(株)は、eスポーツ「Apex Legends」の世界大会「Apex Legends Global Series(以下、ALGS)Year 4 Split 2」と、その予選大会でAPAC North(北アジア太平洋)エリアの世界大会進出チームを決定する「ALGS Year 4 APAC North Pro League Split 2」に協賛しました。



